

# 令和元年度上半期指定管理者管理運営状況シート

## ●施設の概要

施設名	サンフレンドみわ・児童センター	所管課	子ども未来部子ども支援課
所在地	岐阜市門屋字野崎95番地		
指定管理者名	社会福祉法人 岐阜市社会福祉事業団		
指定期間	平成29年4月1日～令和4年3月31日まで		
選定方法	<input type="checkbox"/> 公募 <input checked="" type="checkbox"/> 非公募		
料金制	<input type="checkbox"/> 使用料 <input type="checkbox"/> 利用料金 <input type="checkbox"/> 料金徴収なし		
指定管理委託料(年額)	18,197,166円		
施設の設置目的	児童に健全な遊びを与えて、その健康を増進し、又は情操を豊かにすることを目的とする。		
施設概要	◇構造:鉄筋コンクリート(一部鉄骨)造2階建 ◇敷地面積:1,846.75㎡ ◇延床面積:674.92㎡ ◇施設内容:遊戯室、幼児室、図書学習室、図工室、おもちゃ図書館、事務室、駐車場 ※障がい者センターと合築で事務室ほか共用部分あり		

## ●利用状況

		R01上半期	H30下半期	H30上半期	H29下半期	H29上半期
利用者数 (単位:人)	来館者数	10,177	8,114	10,073	9,454	10,973
	移動児童館利用者数	958	1,143	483	885	214
各室稼働 状況	移動児童館実施回数(単位:回)	※19(17)	※26(22)	※11(9)	22	6
	開館日数(単位:日)	155	149	151	151	157

※実施回数(施設未設置地区実施回数)

## ●業務の履行確認

区分	確認事項	履行状況
利用者サービス	①開館日・開館時間の遵守 ②適切な人員配置 ③広報の方策 ④苦情への対応 ⑤仕様書、事業計画書に基づく事業の実施	①、⑤計画どおり実施。 ②所長、常勤職員2人、非常勤1人(児童厚生員は所長を含め4人)。 ③児童センター便りを毎月発行し、担当エリアの小学校に配布。未就園児用の便りを毎月発行し、幼稚園・保育所・公民館・コミセンに配布。館内に行事を掲示、館内放送を実施。中日新聞地域版に事業案内を掲載。児童センターと法人のHPIに掲載。 ④利用者アンケートの意見については、マニュアルに従い対応。アンケート結果については館内に掲示。
自主事業・提案事業	—	—
施設管理	①施設設備の保守点検の実施 ②施設の衛生管理に対する配慮、快適に利用できる状態の保持 ③省エネルギー並びに環境への負荷の軽減に努めること ④施設・設備・備品等の維持管理	①、④適切に実施 ②就労継続支援B型事業所施設清掃班による清掃を週2回実施。それ以外は職員が清掃を実施。おもちゃ等の消毒も定期的に実施。 ③使用していない部屋の照明やエアコンの節電、エアコンの適正温度での使用を実施。節水の実施。リサイクルの活用。 ④専門業者による野外遊具、設備の点検。遊具等の安全な配置と点検の実施。
施設修繕	下記の観点からの修繕実施状況 ①迅速・適切な修繕の実施 ②指定管理者のノウハウを生かした修繕・整備	大規模な修繕については指定管理者(本部)及び岐阜市に要望を提出。
危機管理・法令遵守	①個人情報の保護 ②非常時の対応策 ③関係法令の遵守	①、②、③マニュアル等に沿って適切に実施。 ②毎月1回の防犯・防災訓練の実施。消防訓練の実施(年2回)。緊急通報装置の携帯。

●利用者評価

<p>利用者アンケートの実施状況</p>	<p>【保護者用(一般来館・クラブ参加)アンケート】 令和元年7月2日～7月31日 保護者(一般来館・クラブ参加)にアンケート(無記名)を実施。 回答者数70人 【小・中・高校生用アンケート】 令和元年7月2日～7月31日 来館した児童・生徒にアンケート(無記名)を実施。 回答者数70人 小学:1年11人、2年13人、3年13人、4年10人、5年9人、6年5人 中学:1年6人、2年0人、3年0人、高校:1年0人、2年2人、3年0人、無回答1人)</p>
<p>利用者アンケートの実施結果</p>	<p>&lt;保護者用(一般来館・クラブ参加)アンケート&gt; 【校区】三輪南(26人) 市外(19人) 三輪北(8人) 藍川(5人) 長良(5人) 長良西(2人) 長良東(2人) その他(3人) 【年齢】10代(0%) 20代(15%) 30代(57%) 40代(21%) 50代以上(7%) 【利用頻度】初めて(8%) ほぼ毎日(1%) 週2～3回(14%) 週1回(46%) 2週間に1回(10%) 月1回(10%) その他(11%) 【来館相手】子(86%) 孫(7%) 友人(7%) 【子・孫の年齢】0才(18%) 1才(33%) 2才(25%) 3才以上(24%) 【来館方法】徒歩(0%) 自転車(4%) 自家用車(96%) 公共交通機関(0%) 【何で知った】ホームページ(21%) 広報紙・チラシ(11%) 学校(5%) 保育所・幼稚園(0%) 知人・友人(45%) ぎふし子育て応援アプリ(0%) ブログ・SNS等のソーシャルメディア(0%) その他(18%) 【評価】 (あいさつ)……満足(91%)、ほぼ満足(7%)、普通(2%)、やや不満(0%)、不満(0%)、無回答(0%) (言葉づかい)……満足(91%)、ほぼ満足(8%)、普通(1%)、やや不満(0%)、不満(0%)、無回答(0%) (利用者対応)……満足(85%)、ほぼ満足(11%)、普通(4%)、やや不満(0%)、不満(0%)、無回答(0%) (利用しやすさ)……満足(79%)、ほぼ満足(17%)、普通(4%)、やや不満(0%)、不満(0%)、無回答(0%) (整理整頓)……満足(87%)、ほぼ満足(11%)、普通(2%)、やや不満(0%)、不満(0%)、無回答(0%) (清潔感)……満足(78%)、ほぼ満足(15%)、普通(7%)、やや不満(0%)、不満(0%)、無回答(0%) (換気)……満足(76%)、ほぼ満足(17%)、普通(7%)、やや不満(0%)、不満(0%)、無回答(0%)  (小・中・高校生用アンケート) 【学校名】三輪南小(36人) 三輪北小(7人) 藍川小(5人) 日野小(3人) 鏡島小(2人) 藍川北中(4人) 三輪中(3人) 岐山高(1人) 富田高(1人) 市外(金竜小外)(8人) 【学年】小学:1年(15%)、2年(23%)、3年(18%)、4年(14%)、5年(12%)、6年(7%)、 中学:1年(8%)、2年(0%)、3年(0%)、高校:1年(0%)、2年(2%)、3年(0%)、 無回答(1%) 【利用頻度】初めて(2%)、毎日(1%)、週4・5回(2%)、週2・3回(24%)、週1回(30%)、 その他(41%) 【来館相手】ひとり(18%)、友人(38%)、兄弟姉妹(17%)、父母(17%)、祖父母(0%)、 親戚(10%) 【来館方法】徒歩(2%)、自転車(24%)、自家用車(74%)、バス・電車(0%) 【好きな遊び】卓球(21%)、ドッジボール(14%)、ボードゲーム(32%)、工作(18%)、 ままごと(8%)、その他(7%)</p>
<p>利用者からの要望・苦情と対処・改善</p>	<p>○要望⇒回答 ・2階ホールにクーラーがほしい。 ・クーラーのない部屋には扇風機がほしい。 ⇒扇風機の設置に関しては安全面を考慮して、置いてません。 ・月曜に開館してもらえるとたすかる。 ⇒市に伝えます。 ・なにかイベントなどがやりたい。 ⇒夏まつりを開催します。 ・職員の方がおみえにならない時に危険な場面にいた場合、他の子どもにどこまで注意をしたらよいか迷います。 ⇒危ないときはすぐ本人または保護者の方に「あぶないよ」と伝えてください。その後職員に伝えていただけるとありがたいです。</p>

●指定管理者の選定基準に基づく評価

区分	選定基準	評価項目	具体的な業務要求水準	評価		
				指定管理者	所管課	評価委員会
公平性 透明性	住民の平等利用が確保されること	①平等利用を確保するための体制、モニタリングなど	・利用者アンケートの実施 ・運営委員会の開催	A	A	A
		②情報公開、広報の方策	・利用者アンケート結果の公表(館内掲示など) ・広範で適切な情報提供・広報活動の実施	A	A	A
		区分評価			A	
効果性	事業計画書の内容が、対象施設の効用(設置目的)を最大限発揮するものであること	③既存業務の改善、工夫又は新規事業等の実施	・業務改善や工夫又は新規事業(行事)等の実施	A	A	A
		④利用者ニーズ、苦情などの把握方法、対応方策及びサービスの質を確保するための体制	・利用者アンケートの実施 ・利用者ニーズ・苦情・クレームへの着実な対応・運営への反映	A	A	A
		⑤利用者に対するサービス向上の方策(窓口対応、プロモーション、設備の整備など)	・移動児童館の実施 ・利用者へのサービス向上に繋がる方策の実施	(A)	(S)	(S)
		⑥利用促進、利用者増の方策	・利用促進や利用者増に繋がる方策の実施	A	A	A
		⑦施設の効用(設置目的)を最大限発揮できるスタッフの配置	・児童厚生員を2人以上、その他の職員(施設が児童センターの場合は体育指導員)を1人以上配置(このうち最低1人は常勤職員とすること)	A	A	A
		区分評価			A	
効率性	事業計画書の内容が、管理経費の縮減が図られるものであること	⑧指定管理経費の妥当性	・収支計画の妥当性及び適正な予算執行	A	A	A
		⑨管理経費縮減の具体的方策	・管理経費縮減に繋がる方策の実施(リサイクルやリユース、節水・節電など)	A	A	A
		区分評価			A	
安定性 安全性	事業計画書に沿った管理を安定して行う物的能力、人的能力を有していること	⑩組織及びスタッフ(採用予定者も含む)の経歴、保有する資格、ノウハウ、専門知識等	・児童厚生員を2人以上、その他の職員(施設が児童センターの場合は体育指導員)を1人以上配置(このうち最低1人は常勤職員とすること)	A	A	A
		⑪スタッフ(採用予定者も含む)の管理、監督体制	・事務分掌等に基づく管理・監督体制並びに事務分担の実施	A	A	A
		⑫スタッフ(採用予定者も含む)の人材育成の方策	・職員の資質向上を図る研修の実施又は研修会への参加	A	A	A
		⑬リスクへの対応方策(防止策、非常時の対応マニュアルなど)	・危機管理(リスク)や非常時対応のマニュアルの整備 ・リスク防止策の実践	A	A	A
		区分評価			A	
区分	選定基準	評価項目	具体的な業務要求水準	評価		
貢献性	事業計画書の内容が、岐阜市あるいは施設がある特定の地域(以下「地元」という。)の振興、活性化などに貢献できるものであること	⑭地元の法人その他の団体の育成(一部業務の再委託先)、地元住民の活用(雇用又はボランティア等)	・地元の諸団体との連携、交流 ・地元の法人その他団体の育成又は地元住民・高齢者・障がい者等の活用	A	A	A
		⑮地元での社会活動等への参加	・地元の振興、活性化などに貢献できる社会活動等への参加(地元行事への参加)又は地元の団体・住民との協働事業等の実施	A	A	A
		区分評価			A	

## ●指定管理者の取組みに対する自己評価(良否、課題と解決策など)

<p>今期の取組みに対する評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新規事業実施について 保護者対象に「食に関する健康づくり」の講座を実施した。 朝顔の花や野菜を栽培してもらい、野菜は幼児親子対象に収穫体験を行った。</li> <li>・継続的な事業の実施について 健全育成事業、地域組織活動支援事業、子育て支援事業を3つの柱とし、継続的に実施した。 子育て支援事業は、乳幼児と保護者対象に夏休みや申込期間以外の平日に毎日実施した。また健全育成事業は、土日祝日、平日共に毎日開催し、いつ来ても参加できると好評だった。</li> <li>・利用者促進について 利用者に声かけを行うとともに、楽しく安全に遊べるように館内の整理整頓を心がけた。 幼児クラブでは母親から要望のあった子どもの「手形足形を使った工作」を実施、成長の記念になると喜ばれた。また講師による「リトミック」は、毎月1回開催した。幼児クラブ終了後、昼食タイムを実施した。 夏休みに、障害者センターの協力を得て「夏まつり」を実施した。 毎月、小学生用と乳幼児用の便りを作成し、小学校、幼稚園、保育所、公民館、コミセン、子育てサークルに配布した。乳幼児の便りは、地域の未就園児対象の子育て支援情報をまとめて作成した。 中日新聞の地域版「ふれあいたいむず」に児童センターの事業案内を定期的に掲載してもらった。 ホームページの情報は定期的に更新し、いつも最新の情報を利用者へ届けるように努めた。</li> <li>・地域とのつながり 地域の社協主催の子育て支援教室や小学校、藍川放課後児童クラブなどに移動児童館で出かけ、支援した。 みわ障害者センターで開催された行事(新元号記念行事や夏休み期間の絵手紙教室など)に小学生が参加した。春・夏休みに食事の準備や片付け、話し相手などを小学生以上の児童が行うランチボランティア(29名、のべ96名)を受け入れてもらい、一緒に食事をしながら交流を図った。 三輪南小学校の児童が地域の公共施設を学ぶ場として提供した。 エールぎふで行われたケース会議に参加した。</li> <li>・ボランティアの活躍について 地域の学校を通して、ボランティアの募集をした。 運営委員や赤十字奉仕団、三輪中の生徒に夏まつりを手伝ってもらった。地元住民の方にボランティアとしてリトミック講師を依頼をした。 みわ障害者センターの利用者に花や野菜を育ててもらった。長期休業期間にランチボランティアを実施し、利用者へ小学生と触れ合ってもらった。</li> </ul>
<p>前回までの意見を踏まえた取組み状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度から引き続き移動児童館を依頼してもらえる子ども会や小学校、各校区の子育て支援サークルなどが多く、移動児童館事業の理解を深めてもらった。</li> <li>・障害者センターの利用者に花や野菜を育ててもらったり、行事に小学生が参加させてもらった。夏まつりの協力をしてもらい、障害者センター施設内でお店を2店設け、たくさんの夏まつり参加者と触れ合ってもらった。</li> <li>・台風や大雨等の気象情報で休館になることを事前に館内に掲示し、声かけを行った。またエアコンのないホールで遊ぶ小学生にエアコンの入る部屋での休憩や水分を摂るよう呼びかけ、熱中症対策をした。</li> <li>・岐阜市社会福祉事業団内の会議、研修で、ノウハウ、情報の共有化や意思統一などを行った。</li> <li>・岐阜市社会福祉事業団と児童センターのホームページから行事の閲覧ができるため、定期的に更新した。</li> </ul>
<p>今後の取組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アンケートで記入のあった意見や日々の会話の中での要望を取り入れ、事業に反映させていく。</li> <li>・障害者センターの行事やランチボランティアなどを通して児童と障がい者が交流できる場を提供していく。</li> <li>・運営委員や地元住民、赤十字奉仕団の方にボランティアをお願いし、児童センターの運営に参加していただく。</li> <li>・今後もボランティアを継続的に受け入れていく。</li> <li>・職員はさまざまな研修に参加し、利用者の求めているものに答えられるようにスキルアップを図っていく。</li> </ul>

## ●所管課の意見

<p>○毎月、小学生用と幼児用の児童センターの「おたより」をそれぞれ作成し、担当地区の小学校、幼稚園、保育所、公民館、コミセン、地域の子育て支援サークルに配布したほか、ホームページの情報を定期的に更新するなど児童センターの活動内容を広く提供した。</p> <p>○移動児童館について、上半期19回開催し、年間目標数値の24回(平均月2回)に向け順調に実施されており、下半期も引き続き実施されたい。</p> <p>○新規事業として保護者対象に「食に関する健康づくり」の講座を実施したり、幼児クラブにおいて母親から要望の高い行事を実施したことなど、子育て中の保護者の支援に努めた。その結果、乳幼児と保護者の利用者数が前年度同期に比べ420人程(6.8%)増加した。</p> <p>○障害者センターとの併設の特性を活かし、それぞれの施設のイベントに小学生や障がい者がそれぞれが参加したり、ボランティアとして協力するなど交流を図ることで良好な関係が構築されている。また、近隣の小中学生が障害者センターにおいて食事の準備や片づけなどを行う「ランチボランティア」を実施し、ボランティア精神の高揚につながっている。</p> <p>○熱中症や度重なる台風への適応な対応によって、大きな事故が発生しなかったことを評価したい。また、今期は災害に対するマニュアル作成に尽力されたことにより、今後施設としての災害への認識や適応力の高まりに期待したい。</p> <p>○職員体制や経営状況については、問題なく運営が行われている。</p>
---

## ●指定管理者評価委員会の意見

<p>今期もセンターの特性を活かし、子どもたちと障害のある方との交流が豊富だったことを評価する。</p> <p>定期的にホームページの情報を更新したり、おたよりを乳児用・小学生用に分けるなど、利用者促進に対する工夫は今後も継続してほしい。</p> <p>移動児童館については、前年度同期と比べて利用者数・実施回数とも大幅に増えている。下半期も続けて実施していただきたい。管理運営は適正に行われており、良好と認められる。</p>
---